

番号	種名	選定基準		事業区域内の個体数	
		国RDB	都RDB	森林特区内	事業区域内
鳥1	ニホンヤモリ		留意種	0	2
鳥2	ヒガシニホントカゲ		VJ	0	2
鳥3	ニホンカナヘビ		NT	2	5
鳥4	ツムグリ		VJ	0	1
両1	ニホンアマガエル		VJ	0	1
昆1	ツヨクツヨクヤブキ		VJ	6	3
昆2	ヒトコブシ		留意種	0	1
ク1	キジロオヒキグモ		NT	0	1
ク2	コアシダカグモ		NT	0	5
水1	マメシジミの一種		DD	99	471
水2	サワガニ		留意種	0	2
合計			11種	107	484

国RDB: 「環境省レッドリスト2018」における該当種。
 都RDB: 「レッドデータブック東京2013」における両多摩地域及び本土部の該当種。
 VJ=絶滅危惧Ⅱ種 NT=準絶滅危惧 DD=情報不足 留意種=現時点では絶滅のおそれはないと判断されるが、留意が必要と考えられるもの

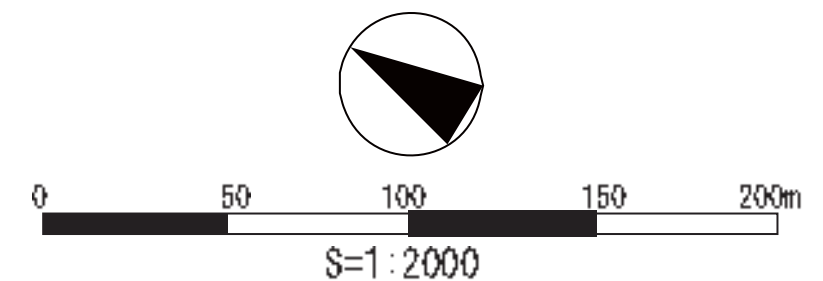


図3-29 希少な動物の移動計画

(4) 自然保全区域の計画

一般的に、自然を保全するためのエリア設定の基本として、複数の小面積の緑地を配置するより、一団となった広面積の緑地の設定が好ましいとされている。

本事業における緑地の配置についても、出来る限りまとまった緑地を設定し、一部の公園や小面積の残留緑地以外は、全て西側に集中して配置し、自然保全区域と位置付け、配置以外にも生態的機能等を高める工夫を行う。

■自然保全区域における配慮の方針

- ・自然環境に配慮した緑地を、一団となるよう配置する。
- ・積極的な管理や林相改良等により、陸域の生態的機能を向上させる。
- ・既存の水系や新たな水系の整備を行い、水系の生態的機能を向上させる。
- ・地域住民が日常のなかで自然を感じられる場所を整備する。



図 3-30 自然保全区域

【自然保全区域における配慮】

①残留緑地の適正な樹林管理

残留緑地内のコナラ群落や、ヌルデ・アカメガシワ群落はこれまで放置され荒廃していたが、本事業により下草刈りやツル切り等を行い、良好な樹林環境となるよう管理を行い、生態的機能の向上を図る。

②積極的な林相改良・植生改良

残留緑地や回復緑地内では、タケ・ササ類やクズ・ススキ等の生物の多様性に乏しい植生が広い面積を占めており、本事業において林相改良や植生改良を積極的に行い、生態的機能の向上を図る。

特に回復緑地では、樹林を伴う草地を整備する事で、希少猛禽類の採餌環境となる事が期待される。

③ワンドの整備

既存の水系を活用し、新たにワンドを整備し、止水を好む動物の生息環境を創出し、水系の生態的機能の向上を図る。

特に、ハイケボタルやモリアオガエルの生息環境となる事が期待される。

④自然水路の整備

現況は暗渠であった水系（排水路）を開渠にし、自然水路を整備する事で、流水環境を好む動物の生息環境を創出し、水系の生態的機能の向上を図る。

特に、ゲンジボタルの生息環境となる事が期待される。

⑤小水域の整備

現況のヨシ群落は、ヨシが密生しており、環境が単一化しているため、開放水面となる小水域を整備し、水系の生態的機能の向上を図る。

⑥多孔質環境の整備

中型～大型の石による石積を複数設置し、多孔質環境の整備を行う。

特に爬虫類や昆虫類等、小動物の生息環境となる事が期待される。

⑦散策路の整備

散歩や自然観察等、地域住民等が日常的に自然環境を感じる事ができる様に、散策路を整備する。

残留緑地内・樹林での散策路の整備に当たっては、現況の自然環境を損なわない整備を行う。

⑧ビューポイントの設定

事業区域で最も高い位置にある回復緑地の頂部平坦部分に設定し、ビューポイントを設定し、自然保全区域等が広く見渡せる様にする。

⑨ヤマザクラ等の列植

住宅や公園・歩道等からの景観や、伐採する大系木ヤマザクラの代償に配慮し、切り上法面積緑地の南東側角にヤマザクラを列植する。

歩道沿いには在来種の花木を植栽する。

表 3-34 自然保全区域における配慮事項

自然保全区域における配慮	配慮・整備等の内容	配慮を行う場所
①残留緑地の適正な樹林管理	・下草刈・ツル切り・倒木処理 ・過剰に繁茂するアオキを除去する。 ・果樹園についても現況保全を基本とし、果樹園としての通常の管理を行う。	残留緑地-1・2・4・5・13
②積極的な林相改良・植生改良	・アズマナシやクズ・外来種等の自然度が低い植生を、コナラ群落への林相改良や樹林を交えた草地へ植生改良する。	残留緑地-3・6~10
③ワンドの整備	・新たな止水環境を整備する。 ・現況のセリ群落等の低茎湿性草地在一部に成立する。 ・山側は木杭とそだ柵により補強する。 ・山側に口木を補植し、緑陰を作る。 ・取水口は中～大の現場発生石の使用を基本とした補強を行う。	残留緑地-12
④自然水路の整備	・現況の水路と連続した、新たな流水環境を整備する。 ・山側は木杭とそだ柵により補強する。	残留緑地-7
⑤小水域の整備	・現況のヨシ群落内に、新たな止水環境となる開放水面を整備する。	残留緑地-11
⑥多孔質環境の整備	・多孔質な石積みを整備する。 ・中～大の現場発生石の使用を基本とする。	残留緑地-13 回復緑地-6
⑦散策路の整備	・木舗装歩行路を整備する。 ・草刈程度とし、樹木の伐採や路面の整備等は行わない。	自然保全区域全域
⑧ビューポイントの設定	・自然保全区域等が見渡せるビューポイントを設定する。 ・ビューポイント等の利用者に配慮した、ベンチ等を整備する。 ・緑陰樹となる高木類を植栽する。 ・宅地側の遮蔽植栽となる高木類を植栽する。	回復緑地-6
⑨ヤマザクラ等の列植	・景観や伐採された大径木の代償としてヤマザクラ苗木を植栽する。 ・歩道に沿った部分には、在来の花木等を中心とした低木を植栽する。	切土法面植栽緑地

表 3-35 自然保全区域の配慮により利用が期待される動物例

自然保全区域における配慮	利用が期待される動物例
①残留緑地の適正な樹林管理	【コナラ群落】 哺乳類：タヌキ・アライグマ・アカネズミ 鳥類：アオゲラ・コゲラ・メジロ・イカル・ヤマシギ 爬虫類：ジムゲリ・アオダマシヨリ 昆虫類：ゴマダラチョリ・アカシジミ・ノキリクワガタ・カブトムシ 【ヌルデ・アカメガシワ群落】 鳥類：コゲラ・メジロ・ウグイス・シジュウカラ・シロハラ 昆虫類：キマダラセリ・ヒメトラハナムグリ 【果樹園】 哺乳類：タヌキ・アライグマ・アカネズミ 鳥類：カラス・モズ 爬虫類：ヒガシニホトカゲ・ニホンカサヘビ 昆虫類：アカシジミ・ヒメトラハナムグリ 【草地】 哺乳類：タヌキ・アライグマ 鳥類：希少猛禽類(採餌場所)・ツグミ・カラヒバ・シジュウバク・ホシジロ 爬虫類：ヒガシニホトカゲ・ニホンカサヘビ 昆虫類：アオカマキリ・シウリヨウバウツトモキ・ヒメオロキ・クサビバシ
②積極的な林相改良・植生改良	鳥類：キツキレイ・ハクセキレイ・セグロセキレイ 爬虫類：アオダマシヨリ・シマヘビ 両生類：ニホンアマガエル・モリアオガエル 水生生物：マメジミ類・サカガニ 昆虫類：ギンヤンマ・シオカラトンボ・ミヤマカネ・ヘイケボタル
③ワンドの整備	鳥類：キツキレイ・ハクセキレイ・セグロセキレイ 水生生物：マメジミ類・サカガニ 昆虫類：ニホンヤマトンボ・ミヤマカネ・ゲンジボタル
④自然水路の整備	鳥類：キツキレイ・ハクセキレイ・セグロセキレイ 水生生物：マメジミ類・サカガニ 昆虫類：ニホンヤマトンボ・ミヤマカネ・ゲンジボタル
⑤小水域の整備	爬虫類：アオダマシヨリ・シマヘビ 両生類：ニホンアマガエル 昆虫類：ホソミオツネトンボ・ナツアカネ
⑥多孔質環境の整備	爬虫類：ニホンヤマトンボ・ジムゲリ・アオダマシヨリ・ヒガシニホトカゲ・ニホンカサヘビ 昆虫類：ニホンオロキ・マダラカマドリマ
⑥ 散策路の整備	地域住民等が、自然を身近に感じられるよう整備するが、中型哺乳類の移動経路ともなる事も期待される。
⑦ ビューポイントの設定	地域住民等が、自然を身近に感じられるように配慮した。
⑧ ヤマザクラ等の列植	地域住民等からの景観に配慮して整備するが、メジロ・ヒヨドリ等の花の蜜を利用する鳥類や、昆虫類による利用も期待される。

⑥多孔質環境（石積み）の整備

中型～大型の石による石積を複数設置し、多孔質環境の整備を行う。特に爬虫類や昆虫類等、小動物の生息環境となる事が期待される。

山型石積み 塊型石積み

①残留緑地の適正な樹林管理

残留緑地内のコナラ群落や、ヌルデ・アカメガシワ群落はこれまで放置され荒廃していたが、本事業により下草刈りやツル切り等を行い、良好な樹林環境となるよう管理を行い、生態的機能の向上を図る。

⑨ヤマザクラ等の列植

ヤマザクラの列植 花木の列植

住宅や公園・歩道等からの景観や、伐採する大径木ヤマザクラの代償に配慮し、切り土法面積緑地の南東側角にヤマザクラを列植する。

歩道沿いには在来種の花木を植栽する。

⑦散策路の整備

散歩や自然観察等、地域住民等が日常的に自然環境を感じる事ができる様に、散策路を整備する。残留緑地内・樹林での散策路の整備に当たっては、現況の自然環境を損なわない整備を行う。

⑧ビューポイントの設定

事業区域で最も高い位置にある回復緑地の頂部平坦部分に設定し、ビューポイントを設定し、自然保全区域等が広く見渡せる様にする。

②積極的な林相改良・植生改良

残留緑地や回復緑地内では、タケ・ササ類やクス・ススキ等の生物の多様性に乏しい植生が広い面積を占めており、本事業において林相改良や植生改良を積極的に行い、生態的機能の向上を図る。特に回復緑地では、樹林を伴う草地を整備する事で、希少猛禽類の採餌環境となる事が期待される。

③ワンドの整備

詳細については、別紙「湿地と水路の計画図」にて記載する。

⑤小水系の整備

詳細については、別紙「湿地と水路の計画図」にて記載する。

④自然水路の整備

詳細については、別紙「湿地と水路の計画図」にて記載する。



図 3-31 緑地断面図



③ワンドの整備

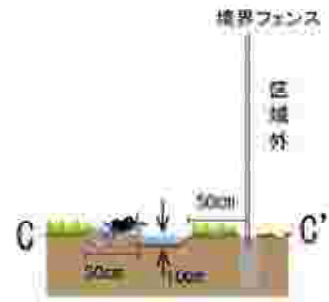


既存の水系を活用し、新たにワンドを整備し、止水を好む動物の生息環境を創出し、水系の生態的機能の向上を図る。特に、ハイケボタルやモリアオガエルの生息環境となる事が期待される。

ワンド(止水に近い環境)ハイケボタル・モリアオガエルの生息地



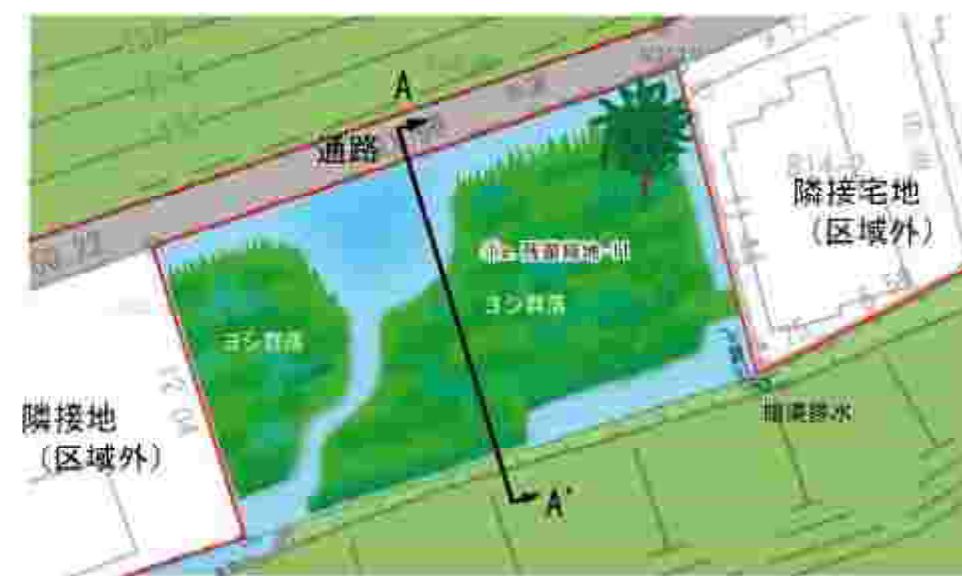
B-B' 断面イメージ



C-C' 断面イメージ

⑤小水系の整備

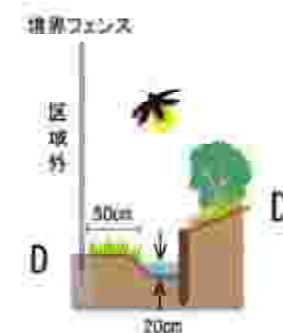
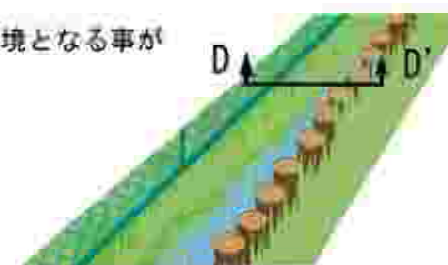
現況のヨシ群落は、ヨシが密生しており、環境が単一化しているため、開放水面となる小水域を整備し、水系の生態的機能の向上を図る。



A-A' 断面イメージ

④自然水路の整備

現況は暗渠であった水系(排水路)を開渠にし、自然水路を整備する事で、流水環境を好む動物の生息環境を創出し、水系の生態的機能の向上を図る。特に、ゲンジボタルの生息環境となる事が期待される。



D-D' 断面イメージ